

「男、突っ走る！」

第93回

第一稿

作・壽倉 雅

登場人物

木内 雅也 (24)

『オフィスツリーイン』代表

国枝 佐代子 (59)

『スリジエネ』総合プロデューサー

国枝 茉奈 (27)

佐代子の娘

山中 敦夫 (44)

劇団主宰者

田所 俊子 (63)

市民映画プロデューサー

橋岡 直政 (48)

舞台俳優

高階 康行 (24)

元中央高校生徒

大島 幸次 (53)

広告制作会社社長

野倉 浩平 (22)

『スリジエネ』メンバー

藤田 昇海 (22)

『スリジエネ』メンバー

山森 直茜 (19)

『スリジエネ』メンバー

富永 美茜 (23)

『スリジエネ』メンバー

大坂 美央 (17)

『スリジエネ』メンバー

熊瀬 怜奈 (18)

『スリジエネ』メンバー

河辺 真恵 (22)

『スリジエネ』メンバー

阿川 愛梨 (20)

『スリジエネ』メンバー

麦沢 梨花 (20)

『スリジエネ』メンバー

坂本 寿梨 (20)

『スリジエネ』メンバー

1 南公民館・全景

2 同・大会議室

稽古の休憩中。

雅也、浩太、茜、昇平、直海、寿梨が話している。

雅也「じゃあ、アー写は再来週撮影するわけだ」

茜「うん。マリエがね、一眼レフカメラ持ってるから、それで撮影してもらおうってことになってね」

直海「でもあれだよ。出演者情報をメールで送るときに、写真も一緒に送らないといけないんでしょ？」

雅也「（資料を見ながら）そうなの。締め切りが今週の水曜日までなんだよね」

寿梨「どうしようね」

昇平「写真って、どうしても送らないといけないのかな」

雅也「夏祭りのホームページに掲載する写真

らしいから、まあ最悪後でも良いような気がするんだけどな」

浩太「後からでも良いかどうか、うっちー確認できる？」

雅也「良いよ。(と資料を見て)えっと、事務局の連絡先は……。あれ……」

浩太「どうしたの？」

雅也「やっぱり、大島さんところの会社だわ」

茜「大島さんって？」

雅也「俺が、国枝さんと初めて知り合った、シニア向けフリーペーパーの編集部でアドバイザーをやってた方」

浩太「じゃあ、顔なじみってこと？」

雅也「まあ、大島さんから今でもたまに仕事もらってるからね。ちょっと聞いてみるわ」

3 大島の会社・事務所

大島が仕事をしている――スマホに電話がかかってくる。

大島「(電話に出て)もしもし木内君、どう

した？ え、うん、うん……ああ、それならね、写真は後でも大丈夫だよ。差し替え
って形で、また後日正式な写真をメールで
送ってもらえれば大丈夫だよ。うん、はい
はい、よろしくね（と電話を切る）」

4 南公民館・大会議室

電話を切る雅也——傍らに浩太、茜、
昇平、直海、寿梨。

雅也「と、いうことで写真は後でもオツケー
ってことで」

浩太「ありがとうッ」

茜「やっぱり、うちーにマネージャー頼ん
で正解だったわ」

雅也「そんなことないって」

寿梨「あとうちー、キーボードの貸し出し
って大丈夫なのか聞いてもらっても良い？」

雅也「オツケー。多分それは、現場の機材関
係の会社の人に聞いた方が良いかもしれな
いから、また確認しとくね」

寿梨「お願いします」

と、真理恵が入ってくる。

茜「マリエ、写真撮影の件、問題ないって。

予定通り、再来週ってことで」

真理恵「了解。じゃあ、カメラ準備しとくね」

茜「ありがとう」

雅也「そろそろ稽古始まるんなら、俺はこれで」

浩太「何、帰っちゃうの？」

雅也「いたほうが良いの？」

浩太「せっかく来たんだから」

雅也「じゃあ、見学してこう」

5 同場所

稽古をしている浩太、昇平、茜、直海、

美央、怜奈、真理恵、緑、愛花、寿梨、

橋岡——演出をしている佐代子。

その様子を、羨望の目で見ている雅也。

6 大学・教室

寿梨が授業を受けている――スマホに
通知が来る。

グループに、雅也からLINEが届いている。
雅也の声「機材の会社の方に問い合わせたら、
楽器の貸し出しはしてなくて、当日ステ―
ジにはアンプしか置いてないらしい」

返信する寿梨。

寿梨の声「ありがとう」

と、浩太から返信が来る。

浩太の声「うちー、確認してくれてありが
とう。そうになると、キーボードをどうする
かだよな。誰か、キーボード貸してくれる
人、いないかな？」

考えている寿梨――と、雅也から返信
が来る。

雅也の声「心当たりがある。聞いてみよう
か？」

と、浩太から返信が来る。

浩太の声「マジか？」

返信する寿梨。

寿梨の声「うっちー、ありがとう。お願いします」

7 コンビニ・駐車場（夜・数日後）

雅也がドアの前で待っている——と、
一台の車が入ってくる。

その車から、高校時代の同級生・康行
が下りてくる。

康行「よう、木内」

雅也「康行、久しぶり。ごめんね、いきなり
あんな相談しちゃって」

康行「いきなりだったから、どうしたかと思
ったよ」

雅也「LINEでも送ったけど、今一緒に演
劇やってるメンバーの子たちが、バンドを
やることになってね、本番は機材の貸し出
しができないんだって。それで、キーボ
ードを貸してくれる人いないかなと思っ
てさ。誰かいたかなあって考えてたら、
そういえば康行がキーボードを趣味で
やってる話思

い出したってわけよ」

康行「そりやありがとう。でもびっくりしたよ、高校時代に散々検定勉強ばかりやってた木内が、今や脚本も書きながら、演劇もやってるなんて」

雅也「それは俺自身が、一番驚いてる。仕事で縁あつて演劇にも携わるようになったんだけどね、これがまたいろいろ難しくって」

康行「確かに、ちよつと痩せた気がする」

雅也「これでも良くなったほうなんだよ。一時期はもつと痩せてたというか、こけてたみたいだから」

康行「健康第一だぞ。良樹やかっちゃんからも、木内が一人で個人事務所やってる話聞いたからさ、やっぱり頑張ってもらわないと」

雅也「ありがとう。これ、本番まで約二ヶ月ぐらい借りっぱなしになっちゃうけど、大丈夫？」

康行「良いよ。最近仕事が忙しくて、あんま

りキーボード触ってないから」

雅也「本当にありがとう。助かったわ」

康行「今度、久しぶりに良樹とかつちゃんど、

四人で会うか」

雅也「良いね。四人で最後に会ったのって、

確か成人式の時か」

康行「そうなるね」

雅也「今、いろいろドタバタしてるけど、秋ぐらいになったらひと段落すると思うの。

その時にでも、四人で会おうよ」

康行「オッケー」

雅也「うん、ありがとうね。あ、キーボード
見せて」

康行「はいよ」

と、車のバックドアを開ける——キー

ボードが置いてある。

雅也「おお、本物だ」

康行「そっか。楽器触ることないんだっけ？」

雅也「普段万年筆かパソコンしか持たないか
ら」

康行「相変わらずだね」

雅也「まあね」

康行「これ、運ぼうか」

雅也「うん」

康行がキーボードを運び、雅也、自身の車のバックドアを開ける——キーボードを詰めこむ康行。

雅也「ありがとう」

康行「じゃ、また返却の時に連絡しようだい」

雅也「本当にありがとう。恩に着ます」

康行「じゃあね」

と、車に乗り込むと出発していく——手を振って見送る雅也。

雅也、スマホでキーボードの写真を撮ると、グループLINEに送る。

雅也の声「キーボード、ゲット！」

と、寿梨から返信が来る。

寿梨の声「うっちー、ありがとう！」

雅也「後は大丈夫か」

雅也、佐代子、茉奈、田所が会議をしている。

佐代子「では、メンバーにも告知した通り、来週末土曜日に、先行オーディションを開催します。今、ヤマさんがオーディションシートを作成してくれています」

田所「メンバーだけだし、そのシートを使ってオーディションをするなら、特に大きな準備はなくても大丈夫かしら」

佐代子「そうですね」

茉奈「一応、スマホで簡単な記録写真撮ろうか？」

佐代子「そうね。動画は、なくても大丈夫かな。その場でいろいろ判断するだろうし」

雅也「あの…：ちよつと良いでしょうか？」

佐代子「どうしたの、うっちー」

雅也「そのオーディション、僕も参加させてはもらえないでしょうか」

佐代子「うっちー」

雅也「今、コウタたちのバンドのマネージャ
ー的なことをやらせてもらってるのと、夏
のミュージカルの稽古を時折見学させても
らってるんですけど、何とかメンバー
たちを見てると、一緒に舞台に立ちたいっ
て思うようになったんです」

佐代子「やっぱり、人前に入る経験をする
と、そう思いたくなるのね」

雅也「もちろん、『神様が願うまで』のオー
ディションに、メンバーとして受かったら
の話です。そりゃ、これから一般公募の人
も来たら、その中で上手い人が役を持って
く可能性もあると思いますが、これを機に
メンバー復帰をしたいなと思って」

佐代子「良いと思うわ。何より、メンバーた
ちが喜ぶわよ。うちーが復帰してくれた
ら」

雅也「事務局としての仕事も、もちろんやら
せていただきますが、せっかくなのでもう
一度メンバーとして出演できるチャンスが

あるならと……」

田所「私も良いと思う。それに、去年と同じで、うちーがメンバーに入ってくれたら、稽古場のことも把握できるから運営としては良いんじゃないかしら」

茉奈「確かに、それ言えてますね。うちーには、中間管理職になってもらって」

雅也「もう中間管理職には慣れました」

佐代子「じゃあ、それも一度、ヤマさんに相談してみるわ。脇役とか、端役でも良い？」

雅也「大丈夫です。『スリジェネ』のメンバーたちと一緒に、同じ舞台に立てれば、それで……」

佐代子「分かったわ」

雅也「お願いします」

9 ファミレス

浩太と茜が話している。

茜「昨日、配置先が決まった？」

浩太「どこ……？」

茜「神奈川支社」

浩太「神奈川……」

茜「一緒に、関東行こうよ」

浩太「ああ……」

10 中央公民館・全景（翌週）

11 同・会議室

雅也、直海、美央、寿梨、愛花が話している。

寿梨「まさかこのタイミングで、二人で神奈

川行っちゃうなんてね」

雅也「コウタも慌てて、向こうでアパート見つけたらしいよ。とみーは、会社の寮だけ
ど」

直海「いずれ同棲でもするんじゃない」

雅也「まあ、すぐに始めちゃうでしょ」

愛花「けど残念だな。今回のオーディション、
二人とも受けられないなんて」

雅也「確かにね。また一緒に舞台立ちたかつ

たわ」

美央「『神様が願うまで』が終わった後、

『スリジェネ』の予定って、何か決まってるの？」

雅也「いや、俺は特に国枝さんから聞いてないけど」

直海「レイナは大学受験勉強に専念するから、夏のリユージュカル終わったら活動休止するって言うし、マリエも仕事の都合がつかなくなるからもしかしたら『スリジェネ』の活動はできなくなりそうって言ってたし、シヨウもしばらくは名古屋の演劇に専念したいって言ってたしね」

雅也「また活動休止と卒業が続くのかな……

あ、でもそれ言ったら、コウタもとみーも一緒か。毎週末だけ神奈川からこっちに来るなんて、ハードスケジュールだもんね」

寿梨「八月までそれが続くだけでも大変そうなのにね……」

雅也「みんなと一緒に舞台立ちたいって気付

くの、遅かったかな……」

愛花「でも、私たちとしてはうっちーが復帰
してくれるのは嬉しいよ」

美央「それは言えてる」

寿梨「お帰り、うっちー」

雅也「まだオーディション合格したわけじゃ
ないのに……でも、ただいま」

笑い合う一同。

12 同場所

先行オーディションが開催されている。

審査員席に座っている佐代子と山中――

――椅子に座っている雅也、直海、美央、

緑、寿梨、愛花。

後ろから全体の様子を見ている茉奈と

田所。

佐代子「では、ただいまから『神様が願うま
で』のメンバー先行オーディションを開催
します。よろしく願います」

一同「よろしく願います」

山中「それでは、オーディション用の台本を配ります。(とメンバーたちの前に来て) うっちは男子なので、相手役をやってもらいます。女性陣には、主役あるいは主要人物の役を本日はやってもらいます」

× × ×
台本を見ながら芝居をしている雅也と
緑。

× × ×
台本を見ながら芝居をしている直海と
美央。

× × ×
台本を見ながら芝居をしている愛花と
寿梨。

× × ×
オーディション終了後。
雅也、佐代子、山中、茉奈、田所が話
している。

山中「できれば、俺としてはメンバーの中から主役を選びたいと思ってます」

佐代子「そうですね。演技的には、ナオかむぎですね」

雅也「僕もそれは思います。やっぱり、あの二人は経験値もあって上手いかと」

茉奈「全体的に上手かったけど、その中でもナオとむぎはずば抜けてましたね」

田所「(山中に)一般公募の方はどうですか？」

山中「やっぱり広報や新聞の効果もあるんでしょうね。今朝の段階で四十人来てました」

一同「四十人ッ……!？」

佐代子「すごい規模になりそうね……」

雅也「四十人か……」

13 歴史博物館・全景(夜)

14 同・展望台

階段でそれぞれ並んでいる浩太、茜、昇平、直海、寿梨——カメラを持った真理恵が準備をしている。

真理恵「どう、立ち位置はみんなその辺で大

丈夫？」

一同「オッケー」

真理恵「じゃあ、何枚か撮るね」

と、ポーズを決めた浩太たちを何枚も

撮影していく。

真理恵「次、ちよつと違う立ち位置かポーズ
してみてください」

浩太たち、ポーズと立ち位置を変える。

真理恵「はい、じゃあ撮るよ」

と、浩太たちを何枚も撮影していく。

×

×

×

カメラの操作をしている真理恵——撮
影データをチェックしている浩太、茜、

昇平、直海、寿梨。

浩太「あ、これ良いんじゃない？」

茜「良いね」

昇平「異議なし」

直海「うん、良いと思う」

寿梨「これだね」

真理恵「じゃあ、うちーに送ってきます」

一同「お願いしますッ」

15 中央公民館・打ち合わせコーナー（翌）

雅也がパソコンで、浩太たち『アステ

リズム』のアーティスト写真を使って、

告知チラシの制作をしているーそこ

へ、佐代子が入ってくる。

佐代子「おはよう、うちー」

雅也「おはようございます」

佐代子「ごめんね。急遽、音響オペお願いします

ることになって」

雅也「本当に僕で大丈夫ですかね？」

佐代子「何言ってるのよ、演劇祭でやったじ

ゃない」

雅也「あれは自分で書いた作品ですから、大

体のきつかけとかも分かりますけど、国枝

さんの作品ですからね、なかなかプレッ

シャーですよ」

×

×

×

稽古風景の動画を見ながら、台本を見

ている雅也と佐代子。

佐代子「今のところで、音楽をタイミングよ

くパンツと出してほしいの」

雅也「今のところですか……結構重要ですね」

佐代子「とみーのセリフが聞こえた瞬間に、

ジャーンと音楽が流れる雰囲気にしたくて

ね」

雅也「なるほど……一番神経集中しないとい

けないですね」

佐代子「そういうこと」

雅也「頑張るしかないですね……」

まじまじと台本を見つめている雅也。

つづく